酒類・食品 & News 解説
週刊

令和６年３月１日（金曜日）　第3386号
〈昭和42年７月10日第３種郵便物認可〉
毎週金曜日　発行　　編集発行人　石母田 健
購読料 ６ヵ月　14,300円（税込み）
振替番号 東京4－71739
発行所 株式会社日刊経済通信社
本社／東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル９階
☎03(5847)6611㈹　FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924　大阪支局☎06(6353)1791
http://www.nikkankeizai.co.jp/

パスタソース市場
今春も商品投入が活発化

パスタソース市場はコロナ禍で大きく成長し、価格改定も寄与してコロナ明け以降も前年を上回って推移した。

２０２１年以降価格改定が続いた家庭用ドライパスタ市場は、数量ベースでも前年並み～微増と堅調だったが、パスタソース市場はこの動きと連動せず、数量ベースでは若干苦戦した。値上げの影響に加えて、生活防衛意識の高まりによる支出抑制が要因とみられる。

’23年推定市場規模、金額5％増・数量は微減

23年のパスタソース市場は、価格改定の寄与もあり前年比５％増の５１８億円、うちレトルトは１人前がけん引して７％増・２６８億円、まぜるタイプは５・５％増・１８９億円と続伸、缶詰は３％減・22億円と引き続き前年割れ、瓶詰・その他は前年並みの39億円と推定した。

レトルトは、２人前が前年を下回ったものの、１人前が高い伸び率となった。価格改定の寄与もあるが、レンジ対応パウチを中心としたＳＫＵの増加、簡便性や個食などのニーズとマッチしていることから好調に推移している。なお、２人前を中心としたＰＢ品も値上げを実施していることから、ＰＢ品の比率は高まっていないようだ。

まぜるタイプは、手軽さや豊富なバラエティ、節約志向の高まりにより、手ごろな価格であることと、光熱費がかからない点の支持も高まっているようだ。価格改定の影響でメーカーによって好・不調が分かれた。

瓶詰・その他では、キユーピーの「Ｉｔａｌｉａｎｔｅ バジルソース」が前年比２ケタ増、日清製粉ウェルナのボトルタイプが同約２倍と大幅伸長した。

また、ここ数年で既存メーカー以外でもパスタソースを強化するメーカーが増え、プレーヤーとラインアップが拡大している。なかでも１人前レトルトの新商品投入が活発化している。

昨春には永谷園の「パキット」、今春には味の素社の「パスタキューブ」といった新しい形態の商品が登場した。

今春も各社が新商品を積極投入し、形態を含めてバラエティが充実化しているほか、日清製粉ウェルナ、ニップンがそれぞれドライパスタで３月からの新ＣＭ放映をはじめ広告宣伝を積極展開することでパスタへの注目が高まることが予想され、パスタソース市場もさらなる活性化が期待される。

24年もコスト高の継続に加えて、値上げ・物価高・消費支出の低下と取り巻く環境は厳しいなかでも、パスタは経済性の高いメニューであることや、簡便性、多様なニーズに対応できる容器形態と豊富なバラエティが支持されて、今後も堅調な動きが続く見通し。一方で、今後も新規参入や積極的な新商品投入が想定され、ブランド間の競争は激化していく見通しで、ブランドの訴求力がカギとなっている。（姉妹誌「酒類食品統計月報３月号」に詳細記事を記載）。

（竹之内友香）

主な内容

味の素社春季新製品発売　14面
日清オイリオグループ「日清ヘルシークリア」　2面
にんべん、春夏新商品　3面
日清製粉「アミュリア」　11面
千葉製粉、新製品６品　12面
日清製粉ウェルナパスタ関連強化　13面
ニップンブランド新戦略　15面
アヲハタ「フルーツの発信アヲハタ」強化　5面
三菱食品業務用展示会　7面
◎原料商品情報　8面

日刊食品通信
●A4判速報形式
●有力企業広告も掲載
●購読料 6カ月45,100円（税込み）
業界唯一の酒類食品総合日刊紙。多忙の時はヘッドラインをお読み下さい。本文も簡潔、明瞭です。

日刊経済通信社の刊行物

独自の調査による統計・レポートづくりを通じて50余年。今後も酒類食品業界をデータとして記録し続けます。

酒類食品統計月報
●B5判雑誌形式。毎号月末発行
●有力企業広告も掲載
●購読料 6カ月24,750円（税込み）